

高齢者の交通事故死傷率

岡山大学 学生員 ○北垣 義晴

岡山大学 正会員 明神 証

1. はじめに

本研究は高齢者のトリップ旅行時間と死傷者の発生の時間帯ごとの対応を交通手段別に示し、これらを用いた死傷率の推定を目的とし、また年齢階層別にも死傷率の推定を行う。なお、今回は第3回岡山県南広域都市圏パーソントリップ調査¹⁾からのデータを用い、また1994年に岡山県内で発生した高齢者の交通事故²⁾を対象としている。

2. 時間帯別死傷率の推定

ここでいう死傷率とは、単位旅行時間当たりの交通事故死傷者数であり、単位は[人/10万トリップ・時]である。図-1は死傷率の分母にあたる旅行時間と分子にあたる死傷者数の割合の時間帯分布(%)を交通手段ごとに示したものである。これは(b)から(f)の手段別の割合を単純に加えれば(a)の全手段の割合になるように示している。この図から死傷率の大小をみてとることができる。以下にその傾向を示す。

①全手段についていえば、17:00時以降で死傷者の割合が旅行時間の割合より大きくなる。

②徒歩は全手段と同様に17:00時以降で2つの折線が逆転する。

③自転車、自動二輪・原付は、ほぼ一日を通して死傷者の割合が旅行時間の割合より大きい。

④四輪では逆に旅行時間の割合の方がほぼ一日を通して大きい。

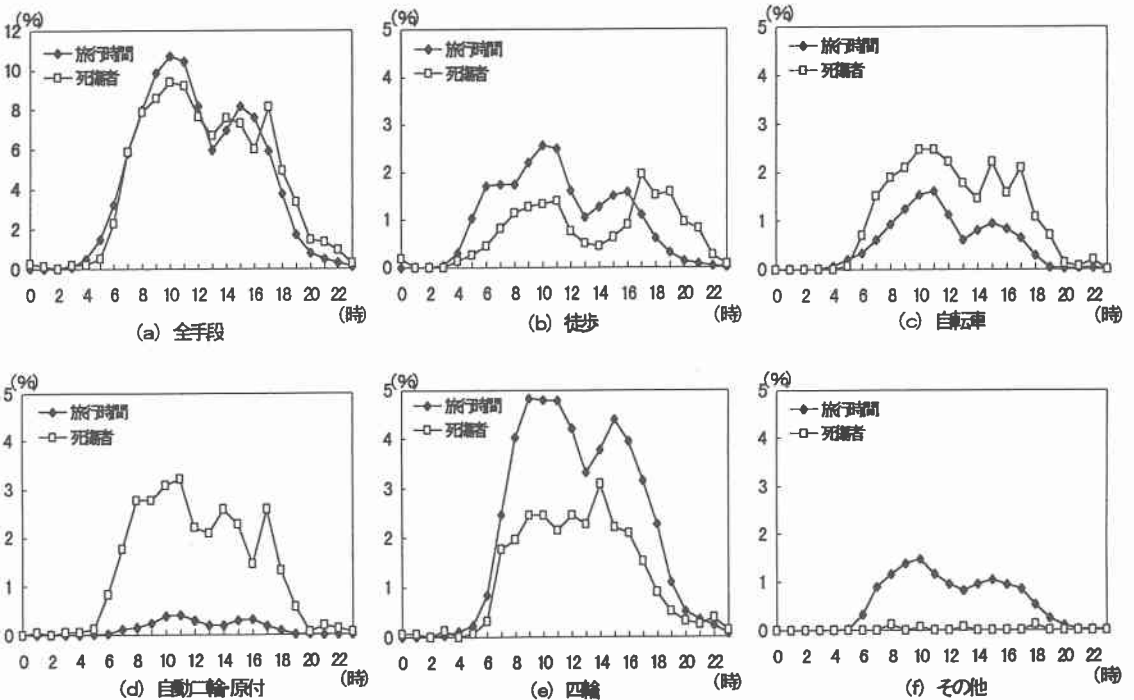


図-1 交通手段別の旅行時間と死傷者数の割合の時間帯分布(%)

図-2は具体的に交通手段ごとに時間帯別死傷率を求めたものである。以下にその傾向を示す。

①全手段についていえば、18:00時以降、特に20:00時以降で一日平均に比べて2倍以上と大きくなる。

②交通手段別にみると手段によってそれぞれ一日の傾向に違いが見られる。

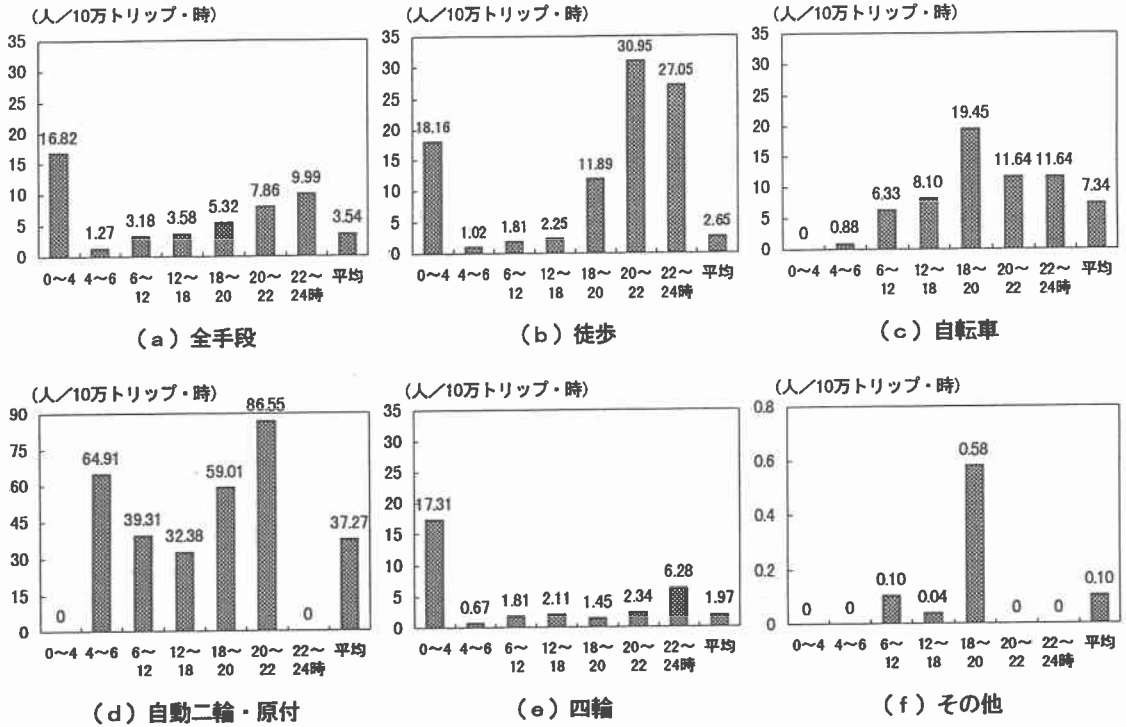


図-2 交通手段別の時間帯別死傷率

3. 年齢階層別死傷率の推定

図-3は高齢者の年齢階層別の死傷率を示したものである。また図-4は年齢階層別の死亡率(単位旅行時間当たりの事故死者数)[人/100万トリップ・時]を示したものである。死傷率は75歳以上で65歳~74歳の約1.8倍、死亡率は約4倍と75歳以上で著しく大きくなる。

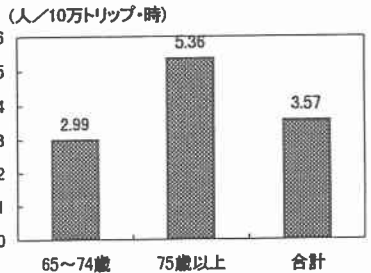


図-3 年齢階層別死傷率

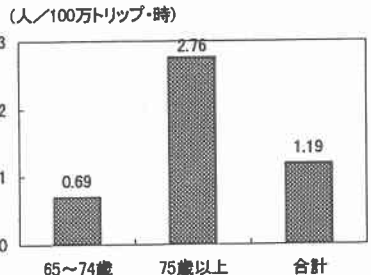


図-4 年齢階層別死亡率

4. おわりに

本研究はトリップ旅行時間から高齢者の交通事故の危険性について評価を行った。今後は、特に死傷率が高くなる夕方以降についてはPT調査のデータから得られる交通行動だけではなく、より詳しく生活行動全体の視点からの分析を行うことなどが考えられる。

【参考文献】

- 1) 岡山県南広域都市圏総合都市交通計画協議会; 第3回岡山県南広域都市圏パーソントリップ調査、1994年
- 2) 岡山県警察本部交通部による。